

響け念仏 北の大地に 本願寺帯広別院だより

〒080-0803 帯広市東3条南5丁目3 TEL: 0155 (23) 3720
FAX: 0155 (21) 4989 発行人: 輪番・仲尾信博

別院ホームページ
http://www.betsuin.jp/ →

2024
(令和6)年
2月号



本願寺御正忌報恩講

京都・本願寺では1月9日(火)から16日(火)まで、御正忌報恩講法要が修行されました。私は11日(水)午前10時の日中法要に奏楽員として出勤し、前門様ご親修のもと「新制御本典作法第一種」がお勤まりになりました。本山の勤式指導所を終了後8年ぶりの御正忌に緊張しましたが、本山でしか味わえない雰囲気や歴史の重みを感じさせていただきました。ご門徒の皆さんにもぜひお参りいただきたいと思いました。(伊澤)



御正忌報恩講。内陣に向かいずらりと並ぶ奏楽員

本堂建物補修工事

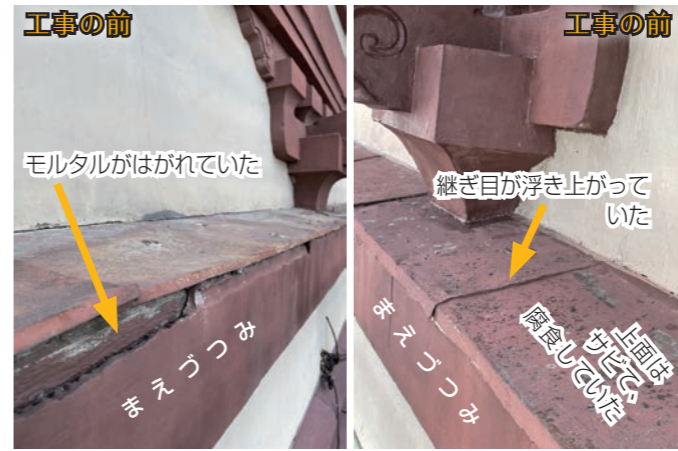


で覆って造られています。

破風下部の前包を修繕

帯広別院の屋根は、京都・本願寺の阿弥陀堂や御影堂と同じ伝統的屋根形式の入母屋造りです。入母屋造りには三角形の破風があります。破風の最下部、下の屋根との間にある水平の横材を「前包」といい、別院の前包は木材などを鋼板

屋根のほかの部分よりも錆による傷みが大きく、特に上面は雨を直接受けるため腐食が進み、また、継ぎ目が浮き上がったりしていました。そこで、建物に水の侵入を防ぐため水切り板を新設し、鋼板を全て取り替えました。また、錆びの目立つた鳥よけの網を新調しました。



自他ともにたい人我兼利 じんがけんり
せつな言葉紹介

祥月

しょうつき

古くは、死後1周年目に当たる月を「祥月」といったそうです。その時から喪を脱するため、おめでたい「祥」の文字を使ったのだとも。◆いま私たちは、毎年、亡くなられた月のことを祥月といっています。慌ただしく日々を過ごす私にとって、祥月はお仏壇に額づいてお参りする機会となり、とても大切な時間を与えてくれます。ある方は「心の一旦停止」と表現されました。◆コロナ禍には人の集まる機会が奪われ、そしてコロナが去ると、何もなかったかのように忙しい毎日が戻ってきました。しかし、私が忘れていようといまいと祥月は訪れます。懐かしい面影と共に、慌ただしく過ごす私に問いかけてくれます。(仲尾)

令和6年能登半島地震により被災された皆様へ衷心よりお見舞い申し上げます。

このたびの地震によりお亡くなりになられた皆様、さらにはご遺族の皆様へ、心から哀悼の意を表します。また、余震が続く中、避難生活を余儀なくされている方、不安の中におられる方の心情をお察し申し上げます。一刻も早く平穏な日々をお過ごしになれますようお願いしております。宗門では、地震発生直後から北陸地方及びその近隣地域被害状況の把握に努め、1月4日以降復旧支援隊を随時派遣して京都から支援物資の運搬を行い、併せて「たすけあい運動募金」において災害義援金の受付を開始いたしました。さらに、1月7日には「令和6年能登半島地震緊急災害対策本部」を中央に設置するとともに、石川教区教務所に「現地緊急災害対策本部」を設置し、物心両面にわたる支援をいたしております。この冬の寒さ厳しき折、ライフラインが絶たれ孤立した地区も未だ残る中、先行きの見えない不安を抱えながらの生活は、想像を超えた厳しいものであることと存じます。道路やライフラインの復旧、避難所等においてご尽力されておられる方々に深く敬意を表しますとともに、皆様の安全と一日も早い復興を願い、宗門として引き続き全力で支援してまいります。

2024 (令和6) 年1月8日

浄土真宗本願寺派 総長 池田行信

浄土真宗本願寺派たすけあい運動募金「令和6年能登半島地震 災害義援金」

郵便振替 010004-99957 加入者名: たすけあい募金
ゆこちよ銀行 店名: 一〇九(マセロキウ)店 番号: 当座00660607 名義: たすけあい募金
※通信欄に「能登地震」、住所、連絡先、領収書名の記入をお願いします。
※お問い合わせ 浄土真宗本願寺派伝道本部社会部〈災害対策担当〉電話075-371-5181
ファックス075-396-6-69 saigai-taisaku@hongwanji.or.jp

帯広別院事務所に能登半島地震災害義援金募金を設置しております。ご協力をお願いします。

2月のご案内

月例布教 1日~3日13時30分(本堂)
常例布教 13日~16日13時(講堂・本堂) 布教使: 小西善憲 師(大阪教区榎並組信徳寺)
宗祖月忌法要 15日・16日13時(本堂)

3月のご案内

春季彼岸会法要 17日(日)~20日(水)13時(本堂)
法要後に職員が法話をします



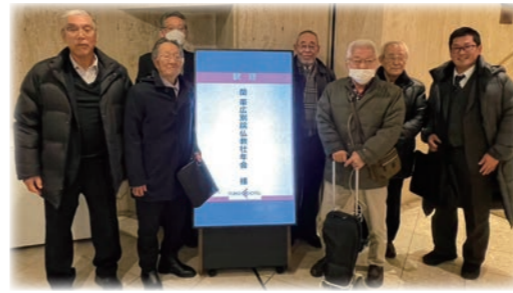
仏教婦人会新年会



聖月流日本吟剣
詩舞道会の方々
とともに

をお聴聞し
ました。
お念仏の
仲間がいる
ありがたい
に気づかせ
ていただく
ご縁になり
ました。

仏教壮年会新年会



なごやかに語り
合っとうちとけ
た様子の皆さん

後、久しぶ
りに語り合
い、和やか
な雰囲気の
中、散会し
ました。
が支援していくことを確認し、その
新年会では、会長挨拶であらた
めて能登半島の震災を今後壮年会
が

11年ぶりの念仏奉仕団で ご本山にお参りしましょう



本山境内の大銀杏

帯広別院では「念仏奉仕団 関西4日間の団体参拝旅行」を計画しています。12月2日(月)に京都・本願寺で奉仕活動に参加し、3泊4日の旅程です。念仏奉仕団以外の予定はこれから決定していきます。昨年5月に皆さんとお参りした慶讃法要同様、できるだけ多くの方々にご参加いただけるよう、さまざまな企画を考えています。参加費用などの詳細については、決まり次第あらためてご案内します。

今回の念仏奉仕団参加は2013(平成25)年以来のものです。ご本山の清掃奉仕を通して、愛山護法の念を深め、宗祖親鸞聖人のみ教えに学ぶとともに、仏恩報謝の生活にこそしみ、真の念仏者としての自覚と意識を高める機縁とするを目的としています。皆さんとともにご本山にお参りできるのが今から楽しみです。



前回2013年の念仏奉仕団の様子

ご法話



お坊さんなのに どうして坊主頭ではないの?..

文：津村拓信

近隣のお店に夕食に行き、店主と他愛ない話をしていると、店のお客さんから「あなたはお坊さんなのですか。ここの店主は丸坊主なのに、お坊さんが坊主頭にしていないのはなぜでしょう」と聞かれました。

私が店主になぜ丸坊主なのかを尋ねると、「飲食業ですから、食べ物に髪の毛が入ると困りますからね。あと、頭の天辺に毛が無くなってしまったので」と笑って教えてくださいました。ううん、さすが職人の心意気と感じました。

では、私はどうと、「坊主頭にしたのは得度を受けた際のみです。なぜなら、浄土真宗は僧侶が剃髪が絶対に必要な条件ではないからです」と答えました。でも、「なぜ最初だけ坊主頭にしたのですか」と再度の質問でした。

「お坊さんになるために、親鸞聖人も剃髪されたことに習い、坊主頭にして得度式を受ける必要だったがあったからです」と答えても、納得はできないようでした。私が私服であったこと等も、納得できない要因だったのでしよう。せっかくなご縁だったこともあり、別院の法要にお誘いしたところ、ご参拝に来ていただけたとのことでした。その方は境内で私と出会うなり、「本当に坊主さんだった。すごい」と驚いておられました。

見た目や普段の行いというものは、僧侶である限り、衣を着用していなくても襟を正して生活しなければならぬと気づかされました。

では、剃髪について教えの中でどのように伝えられているのかというと、『仏説無量壽経』ではお釈迦さまは、きれいな衣服を捨てて出家者の身となり、髪を剃って樹木の下に姿勢を正し座り、6年間出家者としてなすべき修行をされたと記されています。

親鸞聖人も出家される際に剃髪されたことが覚如上人が作成された『親鸞伝絵』で描かれていますし、『御絵伝』にも剃除されたと絵にされています。その当時から、髪を剃るといふことは、僧侶として歩み始めるための第一歩だったと言えます。

親鸞聖人は流罪となったことから、国家に帰属する僧侶ではなくなってしまうこと、親鸞聖人は「僧侶でもなく、俗人でもない、自身の姓を禿とする」と言われたそうです。さらに「禿」に親鸞聖人は自分自身の愚かさを出すために「愚」を付けて「愚禿」と名乗られています。

見た目だけにとらわれるのではなく、念仏者として阿弥陀さまの教えを聞くことで、迷いなくお念仏を喜ぶ生活を送ることが大切だといふことです。